

昔に帰る未来型～佐賀市下水浄化センターを「宝を生む施設」に～

佐賀市上下水道局 下水プロジェクト推進部

〒 840-0036 佐賀県佐賀市西与賀町大字高太郎 2667

☎ 0952-22-0181 <http://www.water.saga.saga.jp/main/>

「あたりまえの暮らしが地域の力になる」をコンセプトに、人の暮らしから出る「下水」からエネルギー（豊かさ）を作り出し、低炭素・循環型社会を実現へ。佐賀市下水浄化センターでは、迷惑施設と思われがちな下水処理施設を、環境にやさしい歓迎施設「宝を生む施設」に転換するため、下水汚泥の肥料化や下水処理水の海苔養殖・農業への利用、バイオガス発電等の取り組みを積極的に進めています。



審査コメント

『昔に帰る未来型～佐賀市下水浄化センターを「宝を生む施設」に～』で高く評価できる点は、単に下水の発電利用や堆肥化などバイオマス活用といった領域をはるかに超え、その肥料でつくられた農作物についての研究やPRなど、農業の活性化を見据えた出口戦略がしっかりしていることだ。これは行政のたてわりを超えた好モデルであろう。

さらに、処理過程で発生する二酸化炭素を活用し藻類の培養をするなどまさに最先端の技術への応用も進めるなど「下水を宝にする」施策としては全国の模範となる素晴らしい取り組みと評価できる。

審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

低炭素杯 2017 環境大臣賞グランプリを受賞させていただき、大変嬉しく思っております。佐賀市の取り組み、そして、下水道が有するポテンシャルの高さを、今回の受賞を誇りに、積極的にPRしてまいりたいと考えております。下水汚泥の堆肥化事業は肥料利用者の皆様がいるからこそ成り立っているものであり、そもそも私共の取り組みは人の暮らしから出る「下水」から豊かさを創造するものです。この受賞は市民の方々のご理解・ご協力があってこそこの受賞です。今後とも「人と人とのつながり」を活力に、環境にやさしい低炭素社会構築に貢献する取り組みを進めてまいります。

九州エコライフポイント（九州版炭素マイレージ制度）

九州版炭素マイレージ制度推進協議会

〒 870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1

☎ 097-506-3031 <http://q-ecolife.com/>

九州地域の住民が「家庭の電気使用量の削減」、「間伐・植樹などの環境保全活動への参加」や「省エネ製品の購入」を行った場合に、地域のスーパーやコンビニ、道の駅での買い物等に使用できるポイント券「九州エコライフポイント」を交付する仕組みです。

ポイント券や懸賞品の交付が、参加者のインセンティブとなるうえ、取扱店でのポイント券使用による地域経済の活性化や特産品PRにつながっています。



審査コメント

「九州エコライフポイント」の取り組みは、約五万人におよぶ非常に多くの方々に参加し、住民主体による CO₂ 削減と産業振興を両立させるもので、民間の制度としてここまで実現させた努力は素晴らしいとしか言いようがない。特にエコライフポイント活用店舗の広がりが高く評価できる。

また、県を超えた取り組みも珍しく、新たな地域づくりと CO₂ 削減を実現させるモデルとしてより一層の発掘を期待する。

審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

この活動は、自治体だけでは実現できない、環境保全と産業振興の二つをセットにした取り組みです。九州の住民の皆さんはじめ、経済団体、企業、店舗、環境活動団体など、九州地域のさまざまな主体の協力によって運営しています。

今回、市民部門へのエントリーでこのような評価をいただき、「九州エコライフポイント」が、地域の多くの関係者の協働により成り立っていることを、改めて実感しています。

今後も、九州が一体となって、快適で発展性のある低炭素社会の実現を目指し、参加者拡大に努めていきます。

地域材を活用した世界最大の木造コンサートホール

南陽市

〒999-2221 山形県南陽市三間通 430-2

☎ 0238-40-1222 <http://www.city.nanyo.yamagata.jp>

平成 22 年度、公共建築物における木材の利用の促進に関する法律が施行され、森林資源の有効活用、木材利用の促進、林業の再生等が求められています。南陽市では、これまでに前例のない木造耐火建築物となる新文化会館の整備（総事業費 6.7 億円）を契機として、川上（もり）から川下（まち）まで関係者が一体となり森林整備及び林業再生に取り組み、持続可能な循環型社会システムの構築を目指した取り組みです。



審査コメント

「地域材を活用した世界最大の木造コンサートホール」の取り組みは、建築費全体の 31% を林業に循環させるという地域経済活用の先駆的なモデルであるとともに、世界最大の木造コンサートホールとして全国へ、世界へアピールできる建築物としても見事なものである。

また、杉を活用した最先端の耐火技術を持つクルウッドの開発など大型木造建築への道を拓いた功績も極めて高く評価できる。さらに森林を守り災害を減らし CO₂ を削減する、いわゆるグリーンレジリエンスの好例とも言えよう。

審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

環境大臣賞 金賞 自治体部門の受賞にあたり、文化会館建設にご支援、ご協力を賜りました全国の関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

また、世界最大の木造コンサートホールが完成したことにより、全国より大勢のお客様をお迎えすることができ、感謝を申し上げる次第でございます。

今回、このような名誉を頂戴し、一層の木材利用の取り組み、そして低炭素社会の実現に微力ではございますが貢献してまいりたいと考えております。

ホテルネットワーク mito 英宏 eco スクールプロジェクト

学校法人緑丘学園 水戸英宏小学校・中学校

〒310-0913 茨城県水戸市見川町 2582-15

☎ 029-243-0840 <http://www.mito-eiko.ed.jp/>



昔、ホテルが生息していた偕楽園公園に広がる 500ha の水田は、半世紀以上放置された耕作放棄地となっていました。3 年前、ホテルネットワーク mito を結成し、英宏の泉ホテルプロジェクトがスタート。2,500 人の参加を得て 5ha の間伐を行い、160 t の CO₂ 削減と見事にホテルが再生。学校総出で eco に突入。地域活動にも参加を続け、うちエコ診断、I P C C を経て、学校主催環境フェスタを開催するに至りました。



審査コメント

「ホテルネットワーク mito 英宏 eco スクールプロジェクト」の取り組みは、耕作放棄地の不法投棄の回収に始まり、間伐などにより地域全体や市民を巻き込んで地域ぐるみで森と泉を再生地にしたことだけでも極めて高く評価できるが、その間伐材を散策路の敷石材やペレットストーブの燃料、肥料などへ活用させるという徹底した活動は称賛に値する。

その関東最大級の学校ピオトープから生まれた黄門様ホテルの復活が多くの方に感動を与えたことは想像に難くない。

それにもかかわらず今後まだまだチャレンジし続けていこうと言う姿勢が伝わり、とても応援したい気持ちにさせられる。

審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

「低炭素杯 2017」に今年初めて出場致しましたが、「環境大臣賞 金賞 学校部門」・「マクドナルドオーディエンス賞」と大変名誉ある賞を頂き、身に余る思いです。

学校法人緑丘学園水戸英宏小中学校では、ホテル再生プロジェクトと題して、2 年間に渡り、環境調査や英宏の泉の整備を行ってきました。黄門様のホテル復活とともに、様々な環境保全活動の中で「学園・地域住民・行政」の協力を得ながら、二酸化炭素削減に取り組んできたことが、評価に繋がったのではないかと思います。今後は、この活動を継続していくとともに、環境保全活動の輪をさらに広げてまいります。

水戸英宏中学校 関内 泰和

地球温暖化防止に向けた「トライブリッド基地局」の導入について

KDDI株式会社

〒102-8460 東京都千代田区飯田橋 3-10-10 ガーデンエアタワー

☎ 03-6678-1381 <https://youtu.be/CiGGizrzPVo>

KDDIは、従来の商用電力のみを活用する基地局に比べ、年間のCO₂排出量を最大約30%削減できる携帯電話基地局「トライブリッド基地局」を設置しています。また、インドネシア等途上国に向けた技術移転にも取り組み、同設備の普及に努めています。なお、トライブリッド基地局は、地球温暖化防止対策のみならず、商用電力が絶たれた大規模災害時の対策としても有効であり、今回の熊本地震の被災エリアにも設置されています。



審査コメント

「トライブリッド基地局」の取り組みは、基地局で太陽光と蓄電池を活用してCO₂を大幅に削減させるのみならず、大規模災害時にも稼働できる大変レジリエントな取り組みとしても高く評価できる。

また、インドネシアとの連携では発展途上国にも展開していく姿勢にも共感できる。

とりわけ先駆的にこの取り組みをスタートさせた同社の功績は大きい。

今後の大幅導入計画が実現され、また先導モデルとも言えるこの取り組みが基地局の構築として国内外に広がっていくことを期待するものである。

審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

低炭素杯2017において、環境大臣賞 金賞 企業部門を受賞できたことを大変光栄に思っております。当社は、地球温暖化対策と災害対策を両立させる取り組みとして、トライブリッド基地局の設置を日本国内で推進してまいりました。今後は、インドやインドネシア等の途上国に向け、さらに活動の幅を広げていきたいと考えております。今回、同取り組みを皆さんに広く知っていただく場として、低炭素杯に応募いたしました。一般の方に少しでも分かりやすく、また楽しく伝わるよう、8名の社員が頭をひねりながら寸劇を行った結果をご評価いただき、大変嬉しく思います。KDDIは、今後も、地球温暖化防止に向けて全力で取り組んでまいります。